

鳥獣防止柵の直営施工方式について

The Construction of Animal-Proof Fences by Residents

○ 榎原 進* 福間昌巳*

(Makihara Susumu) (Fukuma Masami)

1. はじめに

島根県益田管内においてイノシシ、サル、クマなどの獣類による被害が毎年1～5千万円に上っている。そこで、益田県土整備事務所は中山間地域総合整備事業により、平成16年度から18年度にかけて直営施工方式によるイノシシ防止柵を設置した。

これは地元農家や住民が、県から防止柵資材の現物支給を受け直営施工したものである。これにより大幅なコスト削減が図られたほか、地域の一体感が促進されると共に、臨時的な雇用・就業の機会の創出にもつながった。

2. 鳥獣被害の実態

島根県の中山間地域では、過疎化・高齢化に伴い人が少なくなり家が疎らになってきた代わりにイノシシ、サル、クマといった鳥獣被害が多くなってきている。

島根県内のイノシシの捕獲頭数は平成10年度に8,466頭を数えその後10,000頭から11,000頭へ増加傾向にある。特に平成16年度は14,656頭と異常な捕獲数であったが、その要因として以下があげられる。

- イノシシの餌である植物の地下茎、果実、タケノコなどが凶作年であった。(度重なる台風が追い打ちをかけた。)
- 里山や農地が放置されて荒れた状態になり、イノシシやクマにとって人里に近づきやすい環境になった。

一方、イノシシの被害額については平成10年度の1億6千万円を最高にして年々減る傾向にあり平成17年度には2,800万円までに減少した。その要因として以下があげられる。

- 被害が大きい水稻に対して、補助事業や個人によるイノシシ防止柵の設置が進んだ。
- イノシシ狩猟捕獲及びイノシシ有害捕獲による頭数調整が効果を上げている。

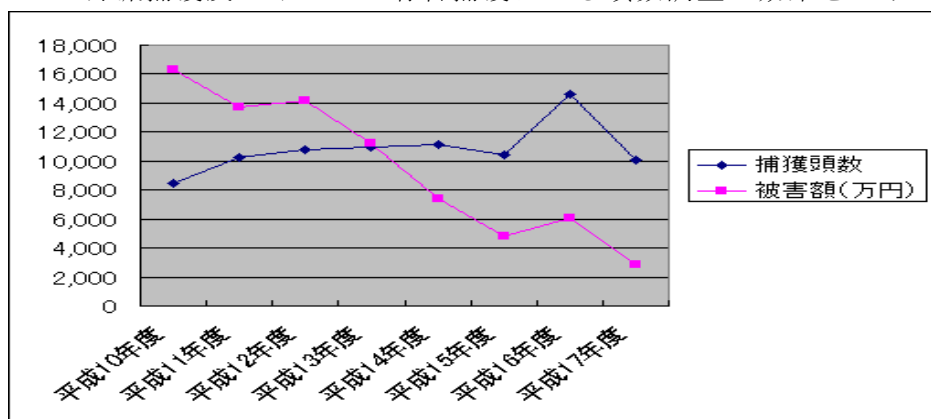


図-1 島根県におけるイノシシの捕獲頭数と被害額

* 島根県益田県土整備事務所農林工務部 Agriculture and Forestry Works Division, Masuda Prefectural Soil Maintenance Office, Shimane Prefectural Government

鳥獣被害、イノシシ防止柵、直営施工、コスト削減

3. イノシシ防止柵の直営施工について

(1) 直営施工方式

市及び町の土地改良区を委託契約相手にし、県が防止柵資材の現物支給を行い地元農家や住民による施工を行った。施工に先立ち資材納入業者が実技指導を実施した。また、施工管理は県職員で行った。

表－1 イノシシ防止柵の施工実績

市町	平成16年度			平成17年度			平成18年度			合計		
	箇所数	事業費	延長	箇所数	事業費	延長	箇所数	事業費	延長	箇所数	事業費	延長
益田市				2	2,583	1,988	3	1,507	2,100	5	4,090	4,088
津和野町	1	6,967	2,827				3	20,720	7,307	4	27,687	10,134
吉賀町				1	4,822	2,584				1	4,822	2,584
計	1	6,967	2,827	3	7,405	4,572	6	22,227	9,407	10	36,599	16,806

(単位:千円、m)

設置状況写真



(2) 直営施工方式によるコスト縮減について

本事業は「農業農村整備事業等における農家・地域住民等参加型の直営施工について」に基づき実施するもので、次のとおりコスト縮減となった。

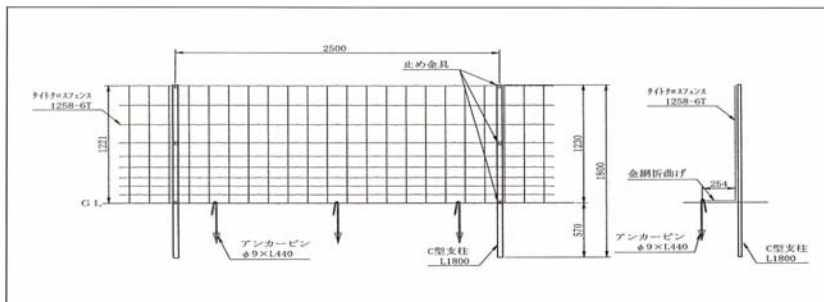
- ・本委託業務諸経費

(材料費 (28,500 千円) + 労務費 (6,900 千円)) * 3.5% = 1,239 千円

- ・通常工事諸経費

(材料費 (28,500 千円) + 労務費 (6,900 千円)) * 55.0% = 19,470 千円

- ・差額 (コスト縮減額) 18,231 千円



図－2 イノシシ防止柵標準図

4. おわりに

イノシシ防止柵の他、益田管内において中山間ふるさと・水と土保全推進事業によるクマ用電気牧柵設置 (直営施工) や、みどりの森緊急整備事業 (県単独雇用対策) によるクマ等の被害軽減のため緩衝帯設置を実施している。

益田県土整備事務所では平成19年7月にこれら実施地区においてアンケート調査を行い、事業効果等の検証を行う予定でいる。